
スマブラで逃走中やっちゃうよー

瑞希 優羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラで逃走中やつちゅうよー

【NNコード】

N7779X

【作者名】

瑞希 優羅

【あらすじ】

タイトルひとつ、スマブラのキャラで逃走中をしまス

適当に頑張りますのでよろしくね！

ヒマな人、是非みてね

まつわおシニア

マツオ「え、と……もう少しですが、スマートのキャラクターがいる
逃走中やつてんだぞ。」

マツオ「まつ・向こうのところのやつ、おまけ」

マツオ「だから、ヒルノハリ・ヒ・・・」

マツオ「せりなこやーなんでもやることだめなごだよーなあ、みんな
なー」

スマートのキャラクター「せつたくなこ・・・」

マツオ「みんなでみんながつらわれる時・・・」
スマートのキャラクター「やねー・」

マツオ「せりへみんなー〇〇田ドリヒサカヒタのへねー・・・

マツオ「みんなありがとー・・・わわ、まつおくさびつかぬかね?
みんなやねむたこだよー・」

マツオ「いわーなんだこつ・・・無に上から田線なんですよ・
・・。」

マツ木「あー、やがてやるかー。やがてやるかー。」

はじめましてー（後書き）

見てくださった方々ありがとうございます！
これからも頑張りますね。
次、キャラ紹介書きたいと思います

キャラ紹介します。

ゆづり「それでは、キャラ紹介いつきまーす

マリオ

ミスター任天堂！生意氣なおっさん。

足は・・・遅いんじゃないかな？おっさんだから・・・

。

ルイージ

マリオの双子の弟。影が薄い・・・。

マリオ同様足は、遅いだろ？。

ピーチ

キノコ王国のお姫様。ムカつくやつには容赦ない（マ

リオも

その一人）ドレスだから足、遅いよね・・・

クッパ

いつも、ピーチをさらう悪いカメ。

やたらでかいし、短足だから足は、遅い！

ワリオ

なんか悪そうな顔をした人。不良みたい・・・。

足は、遅い！だって、おっさんだから……。

ドンキー バナナが好きなサル。

足が速いのかは、うーん……わからない！

ディーディー ドンキーの弟分。バナナは好き。

すばしっこそう……。

リンク ハイラルのお姫様。ゼルダに片想い中。（本当は、両想
いだ

よー）足は、速そう……かな？

ゼルダ ハイラルのお姫様。リンクに片想い中。（本当は、両
想い

だよー）ドレスだから遅いだらう……。

シーク いつもはせがむだの中にいる。今回は、私が分离
させたよー足は、けっこつ速ー。

ガノンドロフ　顔がものすごく怖い・・・。作品中はガノンと略します。

ます。足は・・・うーん・・・。

トウーンリンク　ちっちゃいリンク。作品中はトウーンと略します

足は、速いでしょ。

カービィ　ププランドの住人。丸いピンクの物体。

足は、遅いと思う・・・。

デデデ大王　ププランドの王様。めんどくさがり屋。作品中は

デデデと略します。足は、遅いんだろう・・・。

メタナイト　仮面をかぶった丸いやつ。素顔はかわいい。

足は、速しだけど・・・どうだろう？

ポケモントレーナー　ポケモンを持っていなかつたら普通の少年。

作品中はトレーナーと略します。
足は、普通ぐらいかな。

ピカチュウ 人気のポケモン。ひきもの私も大好き。
なんか、すばしつこそう・・・。

ルカリオ ポケモンの映画で活躍したポケモン。波動が使える。
足は、まあまあ速いと思つ。

プリン 丸くてかわいいポケモン。走るのはキライ。
隠れるのは得意。

ネス P.S.Eが使える少年。かわいいのだが、たまにクロイ発^{ハラ}をする。足は、遅くもないし、速くもない・・・。

リュカ ネス同様P.S.Eが使える。心優しい少年。
(ネスとは違つて・・・)
足は、ネスよりほんの少し遅いぐらいだらうか?

ピット パルテナ親衛隊長。人の不幸が好きで、結構生意気な少年。

足は、普通よりも速め。

フォックス スターフォックスのリーダー。時々、やんちゃなやつ？

足は、結構速いらしい。

ファルコ スターフォックスのメンバー。あだ名は、焼き鳥。

足は、フォックス同様、結構速いらしい。

ウルフ スターウルフのリーダー。フォックスやファルコとは、仲が悪い。

フォックス、ファルコ同様足は、結構速いらしい。

ポポ

アイスクライマーの一人。イメージカラーは水色。
足は、そこそこの速さ。

ナナ

アイスクライマーの一人。イメージカラーはピンク。

足は、そこそこの速さ。

スネーク いつもダンボールの中に居るおじさん。
足は、普通ぐらいだろう。

ファルコン なんか、いい感じのおじさん。

足は、すぐ速い。うしー。

ロボット ロボットです。戸言でしゃべります。
足は、速いといつておきます。

Mr.ゲーム&ウォッチ 真っ黒の人間。戸言でしゃべる。

作品中はウォッチと略します。
足は、速くない。

サムス 逃走中には、ゼロスーツで挑みます。
足は、なかなか速いです。

ヨッシー

緑色の恐竜。なんでも食べる。

足は、結構速い。

アイク

グレイル傭兵団の団長。お肉大好き青年。
結構足は速い。

マルス

アリティアの王子。腹黒くてどう。
自分で俊足と語っている。

ナシ。

オリマー ピクミンをつれている人間。逃走中では、ピクミン

足は、普通の速さ。

ソニック

青いハリネズミ。

足は、逃走者の中で一番速い。

マスター・ハンド

逃走中の管理を勤める。
私が100円で雇いました。
ミッションとかも作っています。気さくで面

白い人です。

クレイジー・ハンド　マスター・ハンドと同じ文章です。

ハンター　足が速い人。

ゆうり　私は、ちよくちよく出でます。

以上。

他にも、新しいキャラが出るときは、紹介します。

キャラ紹介します。（後書き）

キャラ紹介、疲れました。。。。。

エリア紹介&ルール説明（前書き）

更新遅れてしましました。

見てくださっていた方、申し訳ありませんでした。

以後、気をつけます。

エリア紹介&ルール説明

エリアしょーかい

逃走中の舞台は『スマブラパーク』という場所に決定しました。

(勝手に作りました)

『スマブラパーク』はノースタウン、サウスタウン、イーストタウン、ウエストタウン、セントラルタウンの五つのエリアで構成されてるよ。

自首をするための電話ボックスは各エリアに一つずつ。

牢獄は、セントラルエリアの広場にあります。

エリアしょーかいは以上。

次、ルール説明。

ルールは、普通の逃走中とあまりかわらないよ。

逃走時間は、240分。

賞金は、一秒200円ずつアップ。

逃げ切ることができれば、288万円ゲットで終わるよ。

もし、自首すればそれまでの賞金をゲットできるよ。

ハンターに捕まれば、もちろん賞金はなしだよ。

(だが、ぬづらが最初約束した100円はもひります。)

そして、ここからは普通の逃走中にはないルールです。

ゲームの最初、逃走者にクレジットカードみたいなものが配られるよ。

このカードには、あらかじめ50ポイント入っていてミッションをクリアするごとにポイントがたまっていくよ。

このポイントは、傭兵コアにある『道具屋』にてハンターに対抗するための道具と交換できるよ。

もらえるポイントの量は、ミッションによって異なるよ。

難しこそmissionは、もらえるポイントが高いよ。

ルール説明は以上です。

では、逃走者のみなさんがんばってください。

エリア紹介&ルール説明（後書き）

なんとか、ルール説明終わりました。

次は、オープニングゲームですね。

がんばります。

オープニングゲーム！？（前書き）

今回は、更新がんばりました。

オープニングゲーム！？

スマブラパーク、セントラルエリアの城前。

ここに集められたのは、スマブラメンバー 37人。

メンバーたちの皿の前には、4つのハンターボックス。

ハンターボックスには、色とりどりの37本のクサリがつながっている。

マリオ「なんか緊張してきたんだけど・・・」

ルイージ「そうだね、それにもつ並集まつてるしゃらん始まるんじゃない？」

カービィ「楽しみペポ！」

ピッコ「金がもられたなんかヤルキでるよな！」

アイク「もし逃げ切れたら、お肉くいたい・・・」

監さん前よりはヤルキになつたよ!」です。

すねと、樂しくおしゃべりしてこの監のうぶつかり・・・

? 「やーみんなー。元氣してる?」

メンバー一同「ん?」

後ろを振り返つたメンバー。

そこにはいたのは・・・

マスハンド「みんな、こんにちは。マスターハンドとクレイジーハン
ドだよー。」

クレハンド「だよー。」

リンク「マスターハンドさんたちも参加するんですか?」

マスハン「いや、僕らは裏方だよ。//シショントか考えたりとか・・・」

クレハン「ううし、今現れたのもいろいろ説明しに来ただけだから・・・」

スネーク「そうなのか・・・」

マスハン「まあ、それはお~いといて、早速逃走中を始めたいと思います。」

メンバー一同「イエ~イ!~

急にテンション高っ!~?

まあそれはいいとして、

クレハン「それでは、今から皆さんこなクジを引いてもら~ります。」

(ちなみにこのクジは、昨日徹夜でクレハンががんばって作りました。)

ネス「あっ、それってあれでしょ？一番を引いた人から順番にあの
クサリを引っこ抜いて
いくやつ…やつたー！あれ一回やつてみたかった…
…」

マスハン「ネス君、少しの間黙っていてください。」

ネス「はあ？そいつが黙れ、ゴミハンドー！」

そつきのネス君は一体ど〜〜〜〜〜

マスハン「めんなさい。ねすくん。」

マスハン「き、氣をとつなおして皆、クジを引いてくれ。」

皆がクジを引き終わりました。

リュカ「僕が一番です。怖い・・・」

ピット「やつたー 最後だ最後ー！リュカーがんばつ！」

フォックス「ピットいいなー俺、16番。中途半端でなんか嫌！」

マルス「僕は、2番。1番と2番と3番は、絶対安全。」

ゼルダ「なんでそんな事わかるんですか？ちなみに私は、29番です。」

マルス「それは、あれだよ。最初にあたりを引いちやつたらおもしろくないからだよ。」

クジ引きが終わり、なんだかテンション高めの皆さん。

オープニングゲームは、一体どうなるのか？

お楽しみに

オープニングゲーム！？（後書き）

やつと、本編に入りました。

これからも、がんばります。

オープニングゲーム！？

クレハン「じゃあ、クジ皆引き終わつたみたいだから簡単にルールを説明するぜ。」

マスハン「…………。」

マスハンはまだネスが放つた言葉『コミハンド』のショックから立ち直れていないうらしい。。。

クレハン「ルールは、ネスが言つていたことと同じだ。一番を引いたやつから順にあのクサリを引いていく。それで、誰かが一本だけあるアタリのクサリを引いたらゲーム開始だ。」

ウォッチ「ツマリ、ソノ『アタリノクサリ』ト言ウノガ、ハンター放出ノクサリナンデスネ？」

クレハン「そーゆー事です。あと、皆にはこれを渡しとかないと。。」

そういうて、クレハンが鞄から取り出したのは、37枚のカード。

そのカードをクレハンは、皆に手渡しで配った。

クッパ「なんだ?」「れ?」

マスハン「あつー。されば、説明するー。」

れつあまで、一晩もしゃべらなかつたマスハンが急にしゃべつた。

シーク「うわー! びっくりした。。。れつあまであつちで沈んでたのこ、立ち直り早いな。。。」

マスハン「ちよっとまだ、氣もちは沈んでるけど、これは説明したかった。」

ウルフ「自分で、沈んでるとか言つなよ。。。」

ピカチュウ「それに、なんか理由が子供っぽい。。。」

マスハン「うー、うるさいこぞー。説明したかったんだからいいじゃないか!」

ミッシュ「別にいいですけど。。。」

マスハーン「よし、じゃあ説明するぞ。」このカードはスマカードと
いって、『スマ』というポイントをためるカードです。スマは、ミ
ツショーンをクリアすると貯まります。ちなみに、スマが貯まるとエ
リアに一つずつある道具屋でハンターに対抗する為の便利グッズと
交換することができますよ。

カードについての説明は以上。」

クレハーン「次に、何か必殺技を持つてる人つているよね? ヤクナン
チャラ~とか・・・」

そんな人には『必殺技つかえなくなーるリング』という
ものを指にはめてもらいま
す。」

クレハーンは、必殺技が使える人たちにリングを渡した。

てか、ネーミングセンスなさすぎっ

クレハーン「あと、羽とかついてる人、どうしてください。」

メタナイト&ペリット「あいよ~。」

ポスッ。

マリオ「羽つて、取り外し可能だつたの?なんか、もうなんでもア
りなんだね。」

マリオ、あきれています。

マスハン「さあて、ルール説明も終わつたことだし、そろそろ始め
ますか。」

そして一人目・・・

リュカがハンター ボックスの前に立つた。

ほかの皆は、ハンター ボックスから20m離れた場所で待機してい
る。

ポポ&ナナ「リュカー、何色にするの~?」

リュカ「決めました。オレンジ色にします・・・それじゃ、引き
ますよ・・・せーの~」

ガシャ・・・

一人目リュカ、セーフ。

ちなみに、セーフだった人はどこか遠くでゲームを始めることがで
きます

リュカ「よかったです。それでは皆さん、頑張ってください。サヨ
ナラ～。」

リュカは、向こうのほうへ消えていった。

オープニングゲーム！？（後書き）

中途半端になってしまい、すみません。

近づいて、更新しようと思っています。

オープニングゲーム！？

オープニングゲーム2人目はマルス。

マルス「じゃあ、黒にしょーかな」

ドンキー「なんでハンターカラーなんだよ。」

マルス「2番目は、アタリを引かないって言つるルールがあるから何色をひいてもいいんだよ。」

ディディー「そんなルール誰も作つてないと思つ・・・」

ガシャ・・・

2人目マルスセーフ。

マルス「ほら、やつぱりひかなかつた。」

ピーチ「リュカ君みたいに『せーの』とか言ってほしかった・・・」

マルス「じゃー皆がんばって〜。ぱいぱ〜い」

ファルコ「何かあいつ、地味にムカつんだけど・・・」

全員「同感。」

マルスは皆がひどい事を言つていると知らず向こうへ走つていつた。

3人目は、ルイージ。

サムス「みなさーん、逃げる準備オーケーですか？」

全員「大丈夫でーす。」

ルカリオ「ルイージ、もつ引いてもいいぞ。」こちちは準備できてる。

「

ルイージ「わよつ、皆何してんの?逃げる気まんまんじゃん。」

マリオ「だつて絶対ひぐじやん・・・」

ルイージ「決めつけんなっ！」

ロボット「ハヤク、ヒイチャイマショウ。」

ルイージ「じゃあ、緑で。。。ひきます。。。」

ガ
シ
ヤ

3番めルイージセーフ。

異常なくらい喜んでる・・・・・。

ネス「ちつ・・・ひかないのかよ。」

ルイージ「まあ、みんながんばって。」

ルイージは向こうへ走つていった・・・喜びながら・・・。

ファルコン「ルイージ・・・不安だつたんだな。」

ファルコンは、走り去るルイージを見ながらつぶやいた。

そして、4番目ソニックは、白色。5番目ネスは、紫色。とクサリを引いていったがハンターはまだ放出されなかつた。

そして次にクサリを引くのは、ガノン。

ピーチ「まさか、あなたが引かないわよね~」

ガノン「大丈夫だ・・・ろう。」

プリン「まあ、頑張るでプリ。」

トレーナー「で、何色引く?」

ガノン「う~む・・・茶色にしよう。」

オリマー「これまた、地味な色をえらびましたね。」

ガノン「じゃ、ひくぞ・・・」

ガツシャン・・・

ハンター放出

出てきたハンター達が、まず狙つのは・・・ガノン。

ガノン「ちょっと、おええええ!ハンター早つー無理無理、無理だつてば!無理いいいいい」

ポン。

ガノンドロフ確保。

残り36人。

ぴろひろひろひ・・・

メールだ。

スネーク「なになに・・・ガノン確保か・・・当たり前だな！」

スマブラパーク城前・・・

ゆうり「おつかれ～。クレハン、マスハン」

マスハン「おおっ、ゆうり。」

ゆうり「いやあ～、オープニングゲーム楽しかったよ。これからも

頑張ってくれ！我がしもべたちよー！」

クレハソ「あんま調子のつたらぶち殺すよ？」

エーリア「う、うめえ……」

さて、次回より逃走中スタートです。

オープニングゲーム！？（後書き）

やつと、オープニングゲーム終わりました。頑張って書きます。

そこで、宣伝タイム。

まつきー（死神魔姫くんの事です）が書いてる、大乱逃走中って小説。

そっちも見てほしいです。

宣伝タイム終了。

MISSHOZI (前書き)

やつと、オープニングゲームから抜け出せました・・・

MISSION1

「ミッション1を実行するの？」

クレハソ「とりあえず、ハンター増やしどけ。」

マスハソ「そーだな、じゃあもつちよつとしたらメール送るか・・・

「

クレハソ「つーか、3人で裏方やんのきつくね?」

マスハソ「たしかに・・・おいつゅうり、誰かいないの?」

ゆうり「いるよ!呼んどいた・・・友達。だから大丈夫!—さあ、そろそろ待機場所いこつ」

3人は、待機場所へむかつた。

そのころ、逃走者たちはといふと・・・

ピーチ「うむまできたら安心ね。ほんとこれまでつきは焦ったわ・・・
自分のドレス踏んじやうなんて・・・」

ピーチのまわりに人影なし・・・

独り言、言つてるし・・・

プリン「もー疲れたpri。どこかに隠れて休むpri・・・あつ、
あそこにするpri。」

プリンの田の前には、いい感じの大きさのBOXが・・・

プリンはそのままBOXにはいつていった。

でも・・・プリンは気づいてないと思つけど、結構丸見え・・・。
ハンター来たら相当ヤバイです。

ピーチ「うわっ、まだ235分も残つてゐる・・・」

今、始まつたばかりな「向を言つてゐるんだ」マイツは・・・

マルス「まだ5分しかたつてないし・・・マジでないわあ・・・」

マイツもかー!何が「ないわあ」やねん!真面目にしてるよ。

ソニック「俺のこの足があれば楽勝だぜ。」

でも、この余裕をぶつこてるソニックの後ろに迫つてくるのは・・・

ハンターだ。

だが、ソニックは気づかない。

ビビビん距離が縮まっていく・・・

ポン。

ソニック確保。

残り、35人。

ソニック「えええええ！？いつの間に・・・オーマイガアア
アアアア。」

ソニックは力尽きた・・・

ぴろひろひろひろ・・

メールだ。

トウーン「ソニックさん確保・・・ええつーあの足の速いソニック
さんが？ハンター恐るべし・・・」

その上、待機場所では・・・

マスハンド、「もうちょっとおひま//シショウヤウツカ・・・・」

クレハン、「そうだな。じゃあ、メール送るぜ・・・」

クレハンはケータイに文字を打ち始めた。

クレハン「送ったぜえー。」

ゆいり「みんな、どんな反応するかな?」

ぴうりゅうりゅう・・・

ミッシュー「またメール!・・・なんだろ・・・。」

ミッシュー

ミッシューの内容を伝えます。先ほど、各エリアに3個ずつハンターボックスが設置されました。エリアは全部で5つあるのでパー

ク内には15個のハンター ボックスが存在していることになります。このハンター ボックスは、残り時間210分になると自動的にボックスが開き、パーク内のハンターが19体になります。皆さんはそれを阻止することができます。方法は、制限時間内に、どこにあるか分からぬハンター ボックスを見つけ、その横にある暗証番号入力装置に自分のスマカードの暗証番号を入力するだけです。1人何個でも阻止することができます。ミッション終了後、阻止した数にみあつた、スマ（ポイント）を入力された暗証番号の、スマカードへお支払いします。

以上です

ミッシンに参加するかは逃走者の自由です。

アイク「ハンターが増えるのか・・・。これはやるしかないな。」

ピカチュウ「うううう・・・ほんとは行きたくないけど、ハンター増えるのヤだし、ポイントもほしいから行こうかな・・・」

逃走者のほとんどはミッションに向かう様子・・・

さて、この後の展開は！？

MISSHOZI (後書き)

皆さん見ててくれてありがとうございます。

ついに、アクセス数が700突破！

ちょっと、びっくりです。

見てくださっている方、これからも頑張りますのでよろしくお願いします。

MISSION1 パート ツー

ルカリオ「ハンターボックスどこだよお・・・」

サウスエリアを走り回るルカリオ。

ルカリオ「建物の中とかは、ないよなあ・・・」

そういうながら、普通の民家のの中へ入つていった。

不法侵入じやないか?という疑問は、置いといて・・・

ルカリオ「やつぱり、ないよねえ・・・・・あつ・・・・あつた。」

ルカリオは暗証番号を入力。

残るハンターボックスは、14個になった。

ルカリオ「俺、よくこんなにいっぱいある民家のの中からハンターボックスのある民家に入つたな・・・ちょー運いい!つて、こんな民家の中にあるんだつたら探すのめんどいな・・・誰かに教えてやろ

一つ。」

ぴろるるるるるる・・

ルカリオが電話をかけたのは・・・

アイク「ん? もしもし・・・アイクですけど。」

アイクだった。

ルカリオ「俺、ルカリオなんだけど・・・」

アイク「えつ? どうかしたのか? とゆうか、俺あんましルカリオと面識ないと思うんだけど・・・」

ルカリオ「うん、面識ない。ただ、電話帳で最初に出てきたのがアイクだつただけ。ほらつ、ア行だから。」

アイク「ああ、そつか。で、何か話があつたんじゃないかな?」

ルカリオ「そーそー、ハンターボックスのこと。俺、今ハンター

ボックス見つけたんだけど、どこにあったと思つ? 民家だよ民家、ごく普通の民家にあつたから、建物の中もよく探したほうがいい。つていう事を伝えたかった。以上。できたら他の人に伝えといて。」

「ふつつ　つーつーつー。

このあとアイクは、ルカリオに教えてもらつたことを、頑張つて逃走者全員に伝えました。

「ボボ、「ハンター ボックスどこだろお?」

ノースエリアを歩き回るボボ。

「ボボ、「アイクは、建物の中にもあるとか言つてたし、あそこに行くぞ! 入ろうかなあ・・・」

ボボが目指すのは、何かの施設。

だが、目の前に現れたのは・・・ハンター。

「うわああ！ハンターだあ・・・もう、走れないよお・・・

」

ポン。

ポポ確保。

ひふひふひふひふ・・・

メールだ。

ワリオ「ポポ確保、残り34人！まったく、子供はダメだなーー！」

今すぐ、殺してやりたいが・・・我慢我慢。

ミッション残り時間あと15分。

いつたい何体のハンターが放出されるのだろうか？

そのころ待機場所では・・・

クレハン「あ～いやひら、まだ友達こねーの？」

ゆづら「あ～、その事なんだけど、急にドタキヤンされちゃって、6人いたんだけど・・・全員。」

クレハンとマスハンのヒソヒソ話タイム

マスハン「あれっ？ ゆづら、友達に嫌われてるんじゃないかなって思つたのって私だけ？」

クレハン「大丈夫だ。俺も思った。ゆづらの学園生活大丈夫か？ 心配なんだけど、マジで」

などなど、ヒソヒソ声でしゃべっていたマスハンたちでした。

MISSION1 パート ツー（後書き）

何か変な文章などありましたら書いてください。

数がおかしいですよとか。

ご協力お願いします。

MISSION1 パート スリー（前書き）

本当は、土曜日に書く予定だったんだけれどね・・・

MISSION 1 パート スリー

その頃、イーストエリアに居たマリオは・・・

マリオ「おー————あつた！」

船着場の桟橋の上にあったハンター ボックスを見つけたようだ。

マリオ「やつたやつた！ ポイントゲット～。」

マリオは、スキップをしながらハンター ボックスに駆け寄り暗証番号を入力。

残るハンターボックスは、13個になった。

マリオ「よつしゃあー！」の調子でがんばるぜい。」

そういうとマリオは、どこかへ走り去つていった。

ファルコ「ハンターボックス見つけ！――！」

ハンター・ボックスを見つけたのは同じく、イーストエリアに居たファルコだった。

ファルコは建物を中心に探していたらしく、映画館の中に居た。

ファルコ「やっぱり、俺のよみは間違っていなかつたな。」

と、言いながら暗証番号入力。

残るハンター・ボックスは、12個になった。

ファルコ「よかつた・・・1個でも見つけることができて・・・」

だが、安心しているファルコの前に突然現れたのは・・・ハンター。

ファルコ「ハ、ハンター！？俺、めっちゃ運悪！なんで4体しかないハンターがこんなちっちゃい映画館にいるんだよ！どんな確率でこんな事になるんだ？」

ファルコが「ああああああ」と叫んでる間にハンターはファルコの後ろに

迫っている。

そして・・・

ぽん。

ファルコ確保。

ぴろりゅうりゅうりゅう・・

メールだ。

ネス「焼き鳥つかまつてんじやん あははははは～うける～」

焼き鳥つて・・・せめて、ファルコつていってあげてね・・・

そして、ミッション残り時間5分。

ぴろりゅうりゅうりゅう・・

またメールだ。

「ディディー」「ミシシコン」ちょっと遅めの途中経過 だつて……

ハンター ボックスがあとどれだけ残っているか、と、阻止した人の名前をお知らせします。

ノースエリア・・・まだ、だれも阻止しません あと3個

ウェストエリア・・・オリマー あと2個

サウスエリア・・・ルカリオ、シーク、メタナイト あと0個

イーストエリア・・・マリオ、ファルコ あと1個

セントラルエリア・・・スネーク、スネーク あと1個

です。

カービィ「まだ7個も残ってるペポ。もっと頑張らなきゃペポ。」

そして、あつという間に残り15秒。

何とか、ピット、カービィ、スネーク、リュカ、ウォッチのおかげで5個は阻止できた。

4分45秒でよく頑張ったと思う。

そして、カウントダウンが始まった。

この15秒で阻止することができるのか？

15

14

13

12

11

10

リンク「見つけた～早くしないと。」

おひ、リンクが見つけたよつだ・・・

9

8

7

6

5

リンク「暗証番号、暗証番号・・・」

4

3

リンク「手が震えて、押せない・・・やっぱー。」

2

リンク「もひ無理。逃げる」

つて、逃げんのかい！

がしゃん・

ハンターが2体、放出された。

リンクはといふと、完全にハンターに見つかってしまっている。

リンク「ちょー、タイムタイム。待ってつてば。」

そして・・・

ぽん。

リンク確保。

メールだ。

ルイージ「あつ、一人縁が消えた！ラッキー。」

続いてまたメール。

ルイージ「なになに・・・『ポイントのふりわけについて』か。」

オリマー、ルカリオ、シーク、メタナイト、マリオ、ファルコ、ピツト、カービィ、リュカ、ウォッチには、ポイント30スマが振り分けられました。

スネークは、90スマが振り分けられました。

以上。

スネーク「90スマだー。後でさっそく道具屋行つてみるか・・・

」

残る逃走者は、32人。

こうして、ミッション1終わりました。

MISSION1 パート スリー（後書き）

いろんな所、省略しました。

読みにくかったら、ごめんなさい。

MISSZONEが終わって・・・（前書き）

めっちゃ、更新遅いですね・・・私つて。

まず、私の小説楽しみにしてる人なんていないと想ひけどね・・・

マリオ「なんか、めっちゃネガティブオーラ漂ってるんだけど・・・まあ、あいつはほつひとつして、小説を読んでください。」

MISSONIが終わって・・・

スネーク「あー、道具屋。」

140スマを持ったスネークは道具屋の前にいた。

スネーク「ちよい、よってみるか・・・」

カラソカラソ（ドアが開いた音）

? ? ? 「おお～、いらっしゃあーい。」

スネーク「おう、ロイじやないか、久しぶりだな！」

ロイ「スネークかあ、こには、道具屋だよ。何がいる？」

ロイの店の前の棚には、いろんなものが並んでいる。

ロイ「ええっとね、こには売っているは・・・クラッカーランチャーとスーパースターとモンスターボールとおとしあなのタネとサン

ダーだよ。どうする?」

スネーク「おっ、いいのあるじゃないか。100スマのクラッカー
ランチャーくれ。」

ロイ「まごどあついー。はい、どーぞ。」

スネークは、クラッカーランチャーを手に入れた。

ロイ「弾は2発はいつてるよ。大事につかってね。」

スネーク「つーか、なんでロイがいるんだよー。」

ロイ「なんでつてひどいなあ・・・なんか、本当はゆづらの友達が
来るはずだったらしいんだけど、ドタキャンされたらしいよ。だから、代わりに僕らがよばれたの。」

スネーク「そうなのか・・・まつ、がんばれよ。」

ロイ「そつちもねえ、じゃあばいばい。」

カラソカラソ

スネークは店をあとにした。

「なんとか頑張つてるやー。」

ピット「やうだね、テテテのくせにまーまー頑張つてるよね。」

2人はなんかよくわからないけど一緒にいるようだ・・・

「くせにってなんだぞい。」

ピット「ハーハンハーン」

だが、そんな二人の前にハンターが現れた！

ピット「やばつ、ハンター…まづい。」

「ほんとだぞい…逃げないとぞい。」

頑張つて走る二人・・・でもハンターとの距離は縮まつている。

ピット「ええい、仕方ない！」

そういうとピットは、デーテの足を引っ掛けた。

「デーテ「ぶえつ！？」

「デーテは大きく転倒。

ピット「デーテーありがとう。絶対に忘れないからあーー。じゃっ」

ピットはすいに速さで遠ざかっていった・・・

「デーテ「ちょっと、ええええええ！あのガキなんて事するんだぞい！」

そして・・・

ポン。

デデデ大王確保。

ပုဂ္ဂနိုင်မြို့

プリン「デデデ大王確保、残り31人・・・ふふふつ！隠れないか
らこういうことになるふり。」

そういうプリンもちゃんと隠れきれてないんですけどね。といつか、まだつかまってないのって奇跡だよ。

いきなりだけど、「牢獄でトーク」はじめちゃこます。

ピットのせいで、つかまつたデデデ、かわいそだなあ・・・

で、今牢獄に入っているのは、5人。

ゆうり「みんなーーきたよ。」

そして、なぜかゆうり登場。

リンク「おひ、ゆうり。なになに?何か持つてきたの?」

ゆうり「持つてきたー。おやつ」

牢獄の監「イヒーーー!」

ゆうり「あいすくじーむなんだけどね、3つしかないの。1つは私のだから、2つ誰かにあげようと思つて持つてきた。」

ファル口「じゃあ、ビーするんだ?」

ゆうり「私、ポポちゃんには、あげるつもりだったから5人でじやんけんして!」

ポポ以外の5人「えつー!なんでポポだけ?」

ゆうり「だつて、ポポちゃんちつちつやいもん。かわいいもん。」

ガノン「そりや、ないだろー」

・・・ せひれい せひれい

なんか、もめてる牢獄でした。

MISSION-1が終わって・・・(後書き)

感想待つてます。

何でも言つてください。

MISSISSONI 始祖母——(多分)(前妻)

クレハン「なあ、あこつ（おひつ）ビーにつたんだ?」

マスハン「ああー、れつか『ポポチヤんとあこすくつーむたべてく
る』って言つて牢獄に行つた。」

クレハン「別に、あこつの方まねしなくてもいいけど。。。
まあ、それよつわらやわらシシションやつたいんだけど、ビーアル
だ?」

マスハン「ふーーーと。。。なんか適当に考えて送つとこじ。」

クレハン「ちよー、適当だなおまえ。ああ、わかつた。適当にメー
ルじとぐ。」

ぴぼぴぼ・・・

クレハン「送信完?——」

ပြန်လည်မှတ်

ゼルダ「あら?メールです。なになに・・・」リッシュョン2・・・ですか。」

二ノ三葉シテシ

ミッション2の内容を伝えます。これから皆さんにはいろんなところに設置してある宝箱の中身を回収してもらいます。そしてその回収した物をセントラルエリアにある、城の最上階に置いてある箱に納品してもらいます。これが、今回のミッションです。結構、簡単なミッションなので全員参加してくれるとありがたい。それに、このミッションに参加しなければ強制失格となり牢獄行きですのでご注意ください。スマは、ミッションを1番にクリアした人に100スマ、2番から8番にクリアした人に70スマ、9番から18番にクリアした人に40スマを振り分けます。19番以降の方、もしくは強制失格となつた方には振り分けられません。残り時間、170分まで受け付けます。

以上です。

ウルフ「強制失格だとー！」これは、やらないと！」

ナナ「宝箱さうん……どじよー？」

プリン「動きたくないプリ……でも強制失格はいやプリ……仕方ないプリ。」

おっ♪プリンが動いた！やはり、全員行くのか！？

そして、宝箱をいち早く見つけたのは……

ファルコン「おお？ 宝箱はこれじゃないか？」

ファルコンだつた……

そして、ファルコンは宝箱を開けた。

ファルコン「なんだ？ 紙切れ？ ……えつ……10000円札？」

なんと、この宝箱には10000円札が入っていた。

ファルコン「もって帰りたい……が、我慢だ。 まあ納品しに行こ

「う。

ファルコンは城に向かって歩を出した。

マリオ「宝箱、ここあんだよ。めざむせこ……」

めざむせこホールを身にまとったマリオ。

そして、そのマリオに近づく黒い影は……。ハンター。

マリオ「うわあっ……ハンターハンターハンター……ヤバイ、ハンター」

どんだけハンターって怖いんだ……

マリオ「やべってー、もう、後ろに迫ってるー。」

そして……

ポン。

マリオ確保。

残り、30人。

ピロウルルルルルル・・

ロボット「ア・・・メールデス。マリオサン確保・・・アララ、ツ
カマツテシマツタンデスネ。」

逃走中、残り時間はあと200分。

がんばれ～皆。

そして、その一瞬では・・・

ゆうひら「ジャンケン大会いー。」

ジャンケン大会が始まっていた。

ソーラー「俺、あんまり自信ないんだけど……ジャンケン。」

リンク「僕も……」

やうひら「えっと、王様ジャンケンするみたい。私が、王様。」
ジャンケン……」「

マリオ「俺も負けくれ~」

デーモン「マリオ……」

ファルコ「うー、多くなったらめどりなんだから……」

マリオ「何か言つたかな? ファルコ君。」

ファルコ「別に……」

やんけんまん「ひづ、「じゅ、マリオも入れてジャンケンじみわ。」「さばい、じ
せんけんまん。」

ゆうり・・・グー。

ガノン、ソニック、リンク、ファルコ、テトテ・・・チヨキ。

マリオ・・・パー。

よつて、あいすくつーむ争奪戦？マリオの勝利ー。

ゆうり「ジャンケンに勝ったマリオ君にはあいすくつーむがプレゼントされました。おめでとうー。」

マリオ「ラッキー」

ゆうり「じゃあポポちゃん、一緒にあこす食べよ。」

ポポ「もう、食べちゃった。」

ゆうり「・・・・・。」

そのあと、ゆうりは一人でこすを食べました。

MISSZONE 始まるよーー (多分) (後書き)

いまさらなんですが、キャラ崩壊多いです。

最初に書つべきでしたね・・・。

MISSION2 パート ツー（前書き）

小説の更新、順調です。

この調子で頑張ります！――――――

MISSZONE パート シー

逃走者たちは、本当に全員!!シッシュンに参加していた。

そして、イーストエリ亞にいたドンキーは・・・

ドンキー「宝箱宝箱・・・あれじゃないか?」

ドンキーは、宝箱っぽいものを見つけたようだ。

ドンキー「やつぱつ……[宝箱]だ!――!」

宝箱の中身は・・・

ドンキー「なんだこれ!なんか、ヌメヌメしてるんだけどー!」

何かよくわからぬ、ヌメヌメしたものだった。

ドンキー「うんなんを、城まで運ぶのか・・・まあ、がんばり・・・

「

セントラルエリアにいた、ネスも宝箱を開けていた。

ネス「あつー包丁じゃん。」

ネスは、宝箱の中の包丁を手にとった。

つーか、子供にこんなもの持たせてもいいのだろうか？

ネス「包丁ゲット サー、何に使おう？」

事件が起らぬことを祈り・・・。

その後も逃走者たちはぞくぞくと宝箱を見つけ・・・。

宝箱を見つけていない逃走者は6人になった。

プリン「ぜんぜん見つからないプリ・・・」

プリンもその一人だ。

シーク「あつ、プリンじゃないか！宝箱は、もう見つけた？」

プリン「まだプリ・・・」

シーク「じゃあちようどいい、あっちにまだ開けられていない宝箱があつたよ。」

プリン「本当プリ？でも、シークはいいのかプリ？」

シーク「僕は、もうすでに見つけてるからね。じゃあ、頑張って！」

プリン「ありがとうプリ！」

プリンは、シークに言われた方向へ走つていった。

プリン「あつたプリ。さあ、開けるプリ・・・」

中に入つていたのは・・・

プリン「何で、高校受験の参考書が入つてるプリ？意味が分からないプリ・・・」

何で、参考書？もつと違うもの入れとけよっ！

まあ、そんなこんなでミッション残り時間20分。

まだ宝箱を見つけていない5人は大丈夫なのか？

MISSION2 パートツー（後書き）

感想待つてまーす

MISSION2 パート スリー（前書き）

今日のつづりもつい一話、書にさやいました！

MISSION2 パートスリー

セントラルエリア、城前。

メタナイト「城だ・・・。ここはの最上階だる。」

トレーナー「あつ！メタナイト～。この城、エレベーターがないんだよ！知つてた？」

メタナイト「そつなのかな～？つづいてるとは・・・階段？」

トレーナー「そういうことだねー。じゃあ、先に行くかい。」

トレーナーは走っていった。

そして、城の階段ではピットヒマルスが競争中であった・・・

ピット「俺が、一番だああああああああーー！」

マルス「違つ！…俺が一番でおまえが2番だあああああ…！」

両者、一步も譲らず、互角の戦いをしてくる。

そして、やっと最上階辺り。

ピット「はあ・・・はあ・・・もう・・・すぐ・・・。」

マルス「はあ・・・疲れた・・・もう・・・無理。」

1階から最上階まで一気に駆け上ってきた2人は、ふらふらしてい
る。

マルス、ピット「つ、ついた！」

最上階に着いた2人の目の前には・・・

カービィ「あつ、2人とも！僕が一番だつたペポ！」

ミッショーンをクリアした、カービィがいた。

マルス、ピット「…………。」

カービィ「じゃ、バイバイ」

カービィは、階段を下りていった。

ピット「絶対、一番だと思つてた。」

マルス「うん。俺も、絶対一番つて確信してた。」

そういうと、2人は仲良く一緒に納品し、ミッションクリア。

宝箱を一番早く見つけたファルコンは、ピットとマルスの後に無事10000円を納品しました。

これで、ミッションをクリアしたのは4人。

ミッション残り時間は16分となりました。

MISSION2 パートスリー（後書き）

感想お待ちしていまーす！

MISSION2 パート ハロー（前書き）

私の小説を見てくださっている方、ありがとうございます。

アクセス数もめっちゃ増ええてうれしいんです。

これからも、よろしくお願ひします。

MISSION 2 パート フォー

ルイージ「もう残り16分！？やばいやばい・・・まだ、宝箱も見つかってないのに・・・。」

ルイージは、宝箱も見つかってない5人のうちの1人だつたようだ。

ルイージ「ほんとに、どこにあるんだよ？・・・。って、あれハンターじゃね？？」

ルイージの目線の先には・・・ハンター。

だが、いち早くハンターの存在に気づいたため、見つからなかつた。

ルイージ「はあ、危なかつた・・・さあ、宝箱探しを続けよう。」

そして、ルイージはそこから少し行つた所で宝箱を見つけた。

ルイージ「なんか今日、めっちゃ運がいい気がする。」

そういうながら、宝箱を開けると・・・中には・・・

ルイージ「おっしゃれって・・・キノコ?」

キノコが入っていた。

あと、手紙がそえてあった。

手紙の内容は・・・

このキノコは全然危くないので食べてもいいよ
一応、納品するものだから少しだけにしてね。
ちょっと、色が汚いけど、心配しないで・・・
決して毒キノコじゃないから

なんとなく怪しい文面だ・・・

ルイージ「これ・・・絶対毒キノコだろ・・・見るからに、色が
変だもん。」

キノコの色は、緑と赤の組み合わせだった。

ルイージ「時間ないし、速く行こー！」

ルイージは、キノコだけをもって城に向かった。

ルイージはこの紙も宝箱の中に入っていたのに、キノコだけを持つてしまった・・・

さあ、いつ気づくのだろうか？あの紙も納品しなければいけないと
いう事に。

ピーチ「あら？ゼルダじゃない・・・。宝箱はもう見つけた？私は、
見つけたわ。」

ゼルダ「見つけましたよ。それじゃあ、ここから一緒に行きません
か？」

ピーチ「そうね！行きましょー！」

2人は一緒に城へ向かった。

リュカ「宝箱、見つからないねえ・・・」

トウーン「そうだね。一体どこにあるんだろう・・・」

スネーク「それから、時間がやばいぞ・・・。ちがうと見つけていくぞっ」

こちらは、3人のようだ。

実は、トウーンとスネークは宝箱を見つけているのだ。

宝箱をまだ見つけていないリュカと一緒に行動してあげてるなんて
優しいなあ・・・

トウーン「あつ、あれ宝箱じゃない?」

声をあげたのはトウーン。

リュカ「ほんとだー。2人ともついてきてくれて本当にありがとうございます！」

そういうと、リュカは宝箱を開けて中身を回収した。

スネーク「よしつ、城はもうすぐそこだ！絶対に成功をせるぞー！」

トウーン、リュカ「おーーーー！」

なんだか、楽しそうなのが、3人に迫っているのはそんな雰囲気をぶち壊しにするあいつ・・・ハンターだ。

スネーク「あれは！ハンターだ。もう見つかってるぞー！」

トウーン「逃げるーーーーー！」

3人は逃げ出しだが・・・ハンターとの距離は3メートルほどしかない。

スネーク「これでは3人捕まってしまう。俺が、おとりになるから子供たちは行ってくれ。頑張れよ。」

リュカ「スネークさん・・・ありがとうございます。」

そして、トウーンとリュカは向こうへ、走り去った。

子供たちが見えなくなつたころ・・・

ポン。

スネーク確保。

残り29人。

びろろろろろろろろ・・

トウーン「メール・・・やつぱり、スネークさん捕まっちゃいましたか・・・。」

リュカ「僕のせいだ・・・よしつ！スネークさんの分まで頑張ります。もし、復活のミッションなどがあればスネークさんを生き返らすことにします。」

ミッション残り時間は12分。

まだ宝箱を見つけていない人は3人。

そろそろ、やばい時間になってきた。

MISSION 2 パート フォー（後書き）

スネーク、いい人にしてみました。

MISSION2 パート ファイブ（まだまだ続く・・・）（前書き）

といつといつ～5話まで来ました～

MISSION2 パート ファイブ（まだまだ続く・・・）

サムス「階段あつたーあつこから最上階まで行くのね。」

サムスは、城まで来ていた。

サムス「さあ、速く行かないと時間がますい・・・」

階段に足をかけたサムスに声をかけた者たちがいた。

ゼルダ「あら? サムスさんじゅないですか!」

ピーチ「本当だわ!」

サムス「ピーチさんとゼルダさん! もし今から、上まで行くんだったら一緒に行きましょう。」

ゼルダ「そうですね。」

ピーチ「行きましょう、行きましょう。」

3人は、一緒に上まで上がる」とになった。

そのころ、階段を上っていたクッパ・・・

クッパ「階段、しんどい。」

クッパ、もうちょっとだーがんばつ。

クッパ「おっ、最上階つてこか? やつたぜー着いたー。」

クッパ、ミッションクリアです。

だが実は、結構たくさんの方が、ミッションクリアしてるんです。

クリアした方は・・・

カービィ、ピット、マルス、ファルコン、トレーナー、ドンキー、シーケ、ネス、メタナイト、ロボット、ヨッシー、ナナ、アイク、ワリオ、ウルフ、ルカリオ、ウォッチ、プリン・・・。

そして、クッパだ。

残念ながらクッパは19番田にクリアしたのだ。

よつて、スマの振り分けの枠から微妙にはみ出してしまった。

クッパ「くそ…………もうちょっとだったのに……ギリギリだめだつた。」

しょんぼりしたままクッパは、階段をおりていった。

クッパが、ちゅうビクリアしたとき・・・

ピカチュウ「よーし。宝箱見つけた!」

やつと宝箱を見つけたようだ。

そして、宝箱を手指して走っていたら・・・

運悪くハンターと鉢合わせしてしまった。

ピカチュウ「わわあ！？ハ、ハンター！？！」

そう行っている間に・・・

ポン。

ピカチュウ確保。

ぴるりるるるる・・

オリマー「ピカチュウ確保ですか・・・。あつ、宝箱見つけました。

ラッキーです。」

ちなみに、残る逃走者は、28人だ。

オリマー「宝箱の中のアイテムも回収しましたので、城に向かわないとですね。」

オリマーは去つていった。

皆さんはお気づきだらうか?

宝箱をまだ見つけていないヤツがあと一人いるということは・・・

そいつとは・・・

フォックス「宝箱って、こんなにもない物なの?」

フォックスでした。

さあ、一体フォックスはどうなつてしまひのでしょつか?

ミッション残り時間9分。

クリアしていないのは、9人

頑張れ9人。

おまけ。

待機場所での会話。

ゆうり「私が牢獄に行つてゐる間にミッションやってくれたんだね。

「

クレイジー「やつたぜー適当!」

マスハント「ちよつとわあ、このミッションで疑問に思ったことがあるんだけど言つていー?」

クレイジー「このミッションは全部俺がセッティングしたから、何でも聞いていいぜ!」

マスハン「じゃあ、聞くぞ！あの宝箱に入つてたアイテムつてどこから持つてきたんだ？」

「ううん、『やういえば』そうだね。なんか、プリンの参考書とか私、持つてたんだがしたんだけど……」

クレイジー「当たり前だわ。ほんとうの家から持ってきたんだから。」

マスハン、ゆうひ「ええ——！」

ゆづら「それ、不法侵入って言つんだよ！」

クレイジー「わりいわりい・・・でも、キノコとかは、他から持つ
てきた。」

マスハン「ゆうらの家あつたら怖いわな。」

「じゃあ、ダンキーの持つてたヌメヌメも他から?」

クレイジー「…………も、まあな…………。」「

ゆうり 「何? 今の間、何?」

クレイジー（あのヌメヌメが、ゆうりの家から出てきたとか、死んでもいいねえ……）

と、こんな感じの待機場所でした。

MISSION2 パート ファイブ（まだまだ続く・・・）（後書き）

感想まつてますよお～

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7779x/>

スマプラで逃走中やっちゃうよー

2011年12月16日23時47分発行